

## 第30回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

- 【日時】 令和4年9月28日（水） 17:00～18:50
- 【場所】 オンライン形式による開催（新型コロナウイルス感染防止措置のため）
- 【出席者】 基本会議委員：石山武委員、稲葉俊郎委員、金山のぞみ委員、  
鈴木幹一委員、袖山尚委員、福原未来委員、  
丸橋昌太郎委員、鹿ノ戸彩委員、小出恵委員、  
三島勇委員

### 内 容

#### 1. 開 会

##### 【会長】

本日も忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。

早いもので年6回会議があるうち、本日は3回目の会議ということで、折り返し地点となった。今回も前回同様新型コロナウイルスの影響などを鑑み、オンライン会議とさせていただいたが、現在は陽性者の療養方法の見直しや、また全国旅行支援も来月から始まるということで、“ウィズコロナ”が日々進んできていることを感じる。

本日の議題である芸術祭について、基本会議の新たな発信の一つとしてぜひ皆様と一緒に進めていければと思っている。前はグループに分かれて広く意見を頂戴したが、今回はまとめということで、全体で話し合いの方を行ってきたい。

本日は【A委員】にご出席いただいているので、直接対面ではないが初めてお会いになる方もいるかと思うので、自己紹介を簡単にお願いしても良いか。

##### 【A委員】

初回の会議はオンラインの移動中で参加していたが、挨拶が出来ておらず、折

り返し地点で初めての登場となり大変失礼した。私は信州大学にて5年前から軽井沢町での様々な活動をしている。関係者として【B委員】や【H委員】も一緒に研究所で活動しているので、何かお役に立てればと考えている。よろしくお願ひしたい。

## 2. 議 事

### 【会長】

では、議事の方に進めていく。

先ほども申し上げたが、前回は2つのグループに分かれ、それぞれで話し合いを進めたが、皆様の意見の共通点としては、住民の皆様に広く対話の機会や、コミュニティ作り、コミュニティ形成の機会を与えたい、また基本会議のことを発信していく機会、場として芸術祭を行ったらどうかというところで、前回の会議が終了した。まだ、芸術祭について細かい内容決定が保留となっていたので、今回の会議で進めていきたい。

前回の会議の終わりに皆様に、イベントについてどういったものが良いか各自で考えてきていただきたいというふうにお伝えしたが、皆様から一言ずつ、芸術祭についてのご意見をお伺いしていければと思う。では、まず【副会長】からよろしいか。

### 【副会長】

前回の会議を聞いていて、例えば、町のあるべき姿を考えるとといったことを意識した芸術祭を皆様イメージしていらっしやったのかなと感じた。風土フォーラムがやるべきこととして、軽井沢に繋がりを持つ人が、作品の鑑賞を通して、来場者、運営側、アーティストなど、関係する人々全てがそれぞれ感じたことを、それぞれが見合うような仕組みづくりが必要だと思う。

前回の会議で【B委員】がおっしやった、結論を求める“議論”ではなく、相手を受容する“対話”ということが重要で、芸術祭という場においては他者の意見に反論することなく、自分を肯定できるような考え方に向けたいと思っている。また、その場限りではなく、感じたことを文章に残すなどして、後から来る来場者にも共有してもらえらるような仕掛け作りを風土フォーラムの役割とすれ

ば良いと考える。

芸術というテーマについては、軽井沢に対するブランドイメージ、軽井沢の価値や魅力など、そのような感覚を促す作品であることが前提だと思う。芸術祭を通じてそれぞれの異なる価値観に触れ、来場者のみならず、関わる人全てが作品を通して新たな気づきが得られるような芸術祭であれば良い。

風土フォーラムに関連する話であるが、新軽井沢のエリアデザイン会議にて、経済効果にスタンスを寄せたものであるが、マルシェイベントを企画・開催する。それにあたり、その企画について、周辺に歓迎される面もあれば一方で様々な意見があり、一部の住民からは、「軽井沢に庶民的な催しは要らない」とか、「限定的な小銭稼ぎのような余計なことをしてくれるな」というような厳しいお言葉を頂戴している。もちろん運営側は一時的な活性化と経済効果のためだけに企画しているわけではなく、風土フォーラムの関係する組織である以上、イベントを通じて地域を巻き込み、地域の担い手を育むといった目論見がある。賑わいの創出を図るための取り組みが、「騒々しさ」と捉えられ「軽井沢の価値を損ねる」となるのか、あるいは「玄関口が閑散としている状態の町は良くない」と考えて「活気作り」と捉えるかで正反対の共感がある。芸術祭と話が離れて申し訳ないが、これが大切なことで一見相容れないようにも見える状況だが、利害関係者と話し合う中で、ある程度お互いに理解を示して調和を取りながら、より良い軽井沢の姿や願いに向けて“同じ方向を向いている”ところで、対話を通じて連携も図られるし、チェック機能が働きながら、円滑に進んでいくのではないかと考える。関係する人々の結びつきを築き上げていく中で、それぞれの価値観と共有と理解を深めていき、そこから生まれるマネジメントや自分にはない考え方に触れるという面白さがある。この芸術祭はそういった場になれば良いと考えている。様々な世代や立場、背景を持った町民それぞれが、多くの考え方に触れ、様々な価値観に出会って、そうすることでコミュニティ意識の醸成と、まちづくりへの町民の積極的な参画も促せるのではないか。合わせて、芸術祭に関与しない方、芸術祭に関心を示さない方も相当数いるはずなので、また別のアプローチも必要だと思う。地域の担い手・作り手が多ければ、町のより良い姿に変わると思う。軽井沢町は、町政に興味関心のない住民が大多数を占めている。そうしたことが背景にあり、民間をまちづくりの主体として位置づけて、風土フォーラムで住民

と行政、官民協働によるまちづくりを進めたいと考えている。長くなったが以上である。

#### 【会長】

次に、【C委員】の発言をお願いしたい。

#### 【C委員】

今【副会長】がおっしゃったように、芸術は本当に様々な角度から様々な感性が働くからこそ、いろんな価値を認め合うすごく良いコミュニケーションツールになると考える。芸術祭を通して相互理解が進めば、風土フォーラムとしての目的に合致するのではないか。それに加え、アーティストやデザイナーなど感度の高い方の視点から地域課題を捉えることにも意味があると思う。「こういう角度で、こういうふうに地域課題を捉えて、こういう形で解決できるんじゃないか」といったニュアンスで、新しい見方をアーティストなどから提供いただくのも良いのではないか。

芸術祭についての全体的な構造・イメージは、“高尚なもの”になってしまうと、(ターゲットとしている)無関心層が逆に遠ざかってしまうと思う。「私は絵を描くのが下手だし」とか「私は芸術活動については疎いし」といったところから、「じゃあちょっと自分には違う」となってしまうともったいない。芸術は「うまく描かなきゃいけない」、「やらなきゃいけない」というものではなく、「楽しむための芸術もある」ことのアピールや、「自己表現もひとつのアートだよ」とか「日々の創意工夫も創造的でアートと言えるのかもしれないよね」といった、アートに対する新しい意味付けが出来るの良いのではないか。これまでの皆様の頭の中にある美術や音楽に対する「上手く歌わなきゃいけない」「描かなきゃいけない」という既存観念のブロックを外すような、新しい視点を取り入れるような芸術祭の見せ方になれば、より広くいろいろな方が参加できるのではないかと考える。そういう意味で前回会議でも発言させていただいた、“表現教育的な取り組み”もあると良い。以上である。

#### 【会長】

申し遅れたが、お1人2分程度でまとめていただけるとありがたい。では、続いて、【D委員】からお願いしたい。

#### 【D委員】

いろいろと考えたのだが、22世紀の軽井沢について、「ブランド価値を維持しながら、どういう軽井沢になっていくべきか」ということを考えた場合に、アンケート等では「環境保全や交通渋滞をなんとかして欲しい」ということを大多数の町民が訴えているので、そうすると今のままの軽井沢を延長したものではない軽井沢町を作らないと駄目だと思っている。

芸術祭について先ほど【C委員】からアートの面についての考えがあったが、アートの中には「技術」も入ると思う。そこで、都市デザインについてのコンテストやフォーラムのようなものを幅広く人を集めてやっていける芸術祭を開催して欲しいなと思う。

また、芸術祭の開催に関する懸念点として、来年は町制イベントがとてまたくさんあり、町の関連施設でも計画しているように聞いている。それらと芸術祭が一体となってやっていくのか、それとも芸術祭はそれとして独立してやっていくのかということがある。加えて杞憂かもしれないが、夏や秋に開催するとなると、観光客がたくさん来る時期と重なり、町民が埋没してしまうのではないかと考えている。雑駁ではあるが、今のところ考えはこの程度である。よろしくお願いしたい。

#### 【会長】

では【E委員】お願いしたい。

#### 【E委員】

【D委員】がおっしゃったような、「軽井沢町がこういう形で何かやれたら良いな」というある種の構成は1回横に置いた発言となるが、まずは芸術祭というものについて、お祭りというか、アートをテーマとしたイベント、その場で起こることや何かアクションを起こしたことで、うっかり皆が出会ってしまったり、うっかり話が始まってしまったみたいな場所を築けたら良いと思う。先ほど【副

会長】がおっしゃったような反対意見なども、初めて聞くと「そんなふうに思われる方もいるのか」という意味で視野が広がるし、異なる意見をお持ちの方とうっかり自分が出会ってしまったときに、考えている背景やその考えの先にあるものが何なのかということをお互いの意見交換から見つめることで、また違った風景が見えてくると思う。そういったきっかけ作りをこのイベント、場があることで、変化に気付いたり、変化が起こったことで「こういったものが定期的にあると良いね」となり、町の人たちが何か自ら次のアクションを起こしていくようなきっかけとなるものであると良い。

### 【会長】

今、事務局の方で画面共有をしているが、Jamboard (Web 上で付箋メモを表示できるアプリ) に皆様のご意見を付箋形式で貼らせていただいている。ぜひそれらも確認しつつ、皆様のご意見を聞いていただければと思う。

では次に、【F 委員】お願いしたい。

### 【F 委員】

前回からいろいろと考えたが、芸術は“何をもって良とするか”という定義が難しい。非常に難しいからこそ、その点が一番面白いところだと思う。芸術祭という形で官民一体となって我々の立場として動かすときに、「これが良い」という押し付けになってはいけない分野だと思う。多様性ということもあり、例えば、現代美術にしても「これが良い」と定義するのは非常に難しい。そこで、一つのやり方として前回の話と重複するが、町内にある既存の施設や既に軽井沢でアーティストとして活躍されている方に関わって貰いながら、美術館や博物館などの新しい楽しみ方や解釈を提示するという、一つ枠組みを作った方がわかりやすいのではないかと個人的には思う。

また、今現在はコロナが徐々に落ち着いてきているとは言え、「一つの場所にたくさんの人を集める」という時代ではなくなっている気がする。1ヶ所に何百人集めるようなイメージよりも、例えば、地域それぞれで行ったイベントを、そこに来られなかった人にも配信するとか、何か冊子のようなものを残して後日軽井沢に宿泊しに来てくださった方が、それに関する冊子をホテルとか

で見られるようにするなど、イベント当日に実際に参加しなかった人にも、普及していくような、内容を知ってもらえるような仕組みを、企画当初から考えられると良いのではないかと考える。以上である。

#### 【会長】

今、付箋で「いつ」のところに、「8月5日」という付箋が1枚貼られているが、これは日程が確定しているという意味ではなくあくまで1案であり、町制100周年のイベントとして1日で行うのであればこの日でどうかという案である。例えば先月に御代田で開催していたフォトフェスティバルのように、1ヶ月など期間を区切ってイベントを行うのも一つの案であるので、そういったことも含めてご意見いただければと思う。

では、続いて【B委員】、お願いしたい。

#### 【B委員】

今の話について、浅間国際フォトフェスティバルが御代田であったのだが、なぜ「御代田」ではなくて「浅間」としたかというのと、「“浅間山麓で一緒にやりたい”という思いがある」というふうに、主催者の方から聞いた。「軽井沢」だけではなくて、「浅間山麓」という山を中心にしたイメージで開催するのも良いかと思う。

芸術祭について、私も「対話」をすごく大事だと思っている。軽井沢は特に声の大きい人の意見に動かされることがあるが、対話が欠けているなと思う。私が先日担当した山形ビエンナーレの芸術祭で実験的にやったのが、視覚障害者、目が見えない人と美術鑑賞をする対話ワークショップである。一般の人からすると、「目が見えない人がどうやって絵を見るんだろう」と思うかもしれないが、まさに芸術を中心とした対話の場をつくることでもある。具体的には、目が見えない方と鑑賞会場へ行き、その人に周りの人が説明をする。例えば、「この絵は、茶色がメインで、中心に田んぼと畑があり、複数の人が集っています」「大きさは2メートルくらいで四角の額縁です」など、ひとつの絵を色々な角度から説明を添えて重ねていく。説明を聞いた目の見えない方も「立っている人はどういう姿勢なんですか」などと質問をすることで、「前かがみの姿勢で、指を開くよう

にして左向きに立っています。よく見ると、人物の奥には鳥が飛んでいて、鳥と人の視線があっっていて、この二つは関連がありそうです。」などと詳細な説明を重ねて行く。参加者は、いつもは見ていなかったような部分を詳細に見ながら、言葉で分かりやすく説明するために、対話が活性化する。ある人は局所的に見ていたものを、別の人は大局的に見て説明したり、いろんな解釈や見方の中で、参加者全員が多様な視点を取り入れて行き、その場にいる人たちみんなでひとつの視覚体験の共同合意に至っていく、という対話のプロセスそのものが視覚障害者で行う鑑賞のワークショップである。芸術祭にはそうした障がい者の方を中心に据えて温かい場をつくる実施方法もある。

芸術祭を実施するにあたっては、企業や文化庁から何千万という補助金を取得する場合もあるが、必ずしもそうしたやり方でなくとも小規模で行うやり方もある。例えば、軽井沢で不要とされるものを集めて材料として、その素材でアーティストと共に創造行為をする方法もある。今ある軽井沢を新しい視点でどう見立てるか、という芸術祭で行えば、アイデア次第で色々な形態で実施出来ると思う。実現不可能な理由を挙げるのではなく、実現可能な範囲内で発想していき、どういう形であればこの規模で出来るのか、と、どう工夫して実施できるかを創造的に考えていきたいと個人的には考える。

また、芸術祭を開催する母体が必要となる。今回の風土フォーラムが母体になるのは良いと思うが、実行委員を作っていくのかが、机上の空論にならないためには一番大事だと思う。私が芸術監督で行った山形ビエンナーレでは東北芸工大の学生を動員して、学生の授業の単位になるような工夫をして手伝ってもらった。市民ボランティアのような形で市民サポーターに事前登録を行い、ボランティアの方と一緒に運営し、その過程で共にまちづくりを考えて行くプロセスも重要である。実行委員をどう作り、どのようにして町民の方を運営に巻き込んでいくかというが、実際の運用では大事である。以上である。

#### 【会長】

では、【G委員】、お願いしたい。

#### 【G委員】



皆様から大変貴重な意見をいただいて、私も大体共通するところである。皆が集まって何か共感できるようなイベントをやる。それで一つ、芸術祭という案が具体的に出てきたわけであるが、風土フォーラムがある種の母体、提案元として存在する以上、風土フォーラムは何のためにやっているのだろうということを考え、芸術を一つの媒介にして、抽象的な言い方になるが今後の軽井沢町の可能性に繋がることや何か新しい発見ができることが必要なのではないかと思う。あくまでも風土フォーラムという目的があり、今後の軽井沢町の可能性や新しい価値を作り出していくということに繋がるようなイベントで、その一つの媒介が芸術だと思う。

芸術というのは、例えば音楽もあり美術もあり、演劇などもあり様々である。なので、少し絞るといふか、皆が参加しやすいものであることや、あるいは誰が参加し、誰を対象にしてやるのかということのを改めて考えるべきである。そこで基盤となるのは、軽井沢の人材や軽井沢町が兼ね備えているものだと思う。人材、いろんな歴史、文化的ものなどを基盤として、対外的に発信するというよりも、軽井沢の持っているものを最大限生かすことが、「軽井沢町ってこんなことがあるんだ」「こんなに価値があるんだ」ということを参加する住民・町民・別荘の方、それから観光の方もいらっしゃるかもしれない、そういう人たちが新たな再発見をするなど、軽井沢の良いところを共感して、何かの新たな再発見、軽井沢の今後の新しい価値に結びつく、そういう機会が芸術祭という印象を持っている。あくまでも今後の軽井沢の価値とか可能性を考えるために芸術を媒介にして、人々がその共感するような場所、そういった位置づけであることが重要だと考える。以上である。

#### 【会長】

続いて、【H委員】、発言よろしいか。

#### 【H委員】

前回、芸術というキーワードで考え方が統一されつつあったと思うが、アートに関しては、既存で美術館協議会があったり、音楽であれば大賀ホールをはじめいろんなホールがあったりするので、それらとの関係性やどうやって差別化す

るのかということもきちんと考えなければいけない。

また、入口を「芸術」とするよりも、もう少し間口を広げてはどうか。例えば、軽井沢は歴史的に学びの地であるので「リベラルアーツ」というような、かなり広げた形にして、それをどういう分野にするかということ、町民みんなで考えているんな部会を作ってやっていくというようなことも軽井沢らしいやり方だと思う。

もう一点、芸術祭を「いつからいつまでやりますよ」という一過性でやるのが良いのか。あるいは、もうずっと軽井沢で向こう10年間、20年間、「アートの街」あるいは「学びのまち」みたいな形にして継続性を持たせるのかということがある。一過性ではなく、継続性を持たせることも重要ではないかなと考えると、あまり出足から絞り込まなくても良い。絞り込めば、「何故そこに絞り込んだのだ」というような合意形成がなかなか難しいのではないか。軽井沢は特に多様性の多い町であり、いかに皆様方との共感を得ながら進められるかということも、大いにチェックしながらやっていった方が良いかと考える。以上である。

#### 【会長】

今チャットに送らせていただいたが、第3期の基本会議の方で出した未来宣言になる。やはり我々第4期も、第3期までの流れを汲み取った上での芸術祭の開催が望ましいということだ。こちらの前文の下から4行目ですね、「私たち風土フォーラムが目指すのは軽井沢の自然や歴史文化の衰退の危機感と未来への展望を住民が共有し、住民主体の議論や行動によって、軽井沢の価値をより高めていくことです」ということで、こちらの未来宣言があるので、風土フォーラムに連続性を持たせるという意味では、これをもとに芸術祭を実現していくのが一番理想的な形かと考える。前回の会議でもご意見があったが、「なぜ芸術祭なのか」というところについては、私達の風土フォーラム基本会議のそもそもの目的である「町民の主体者意識の醸成やまちづくりへの参画していただくきっかけ作り」など、そういったところにも繋がっていくものかと思う。

前回、ご欠席されていた【A委員】にもぜひご意見をお伺いしたい。これまでの皆様のお話を聞いて、何かご意見などあるか。

## 【A委員】

信州大学の社会基盤研究所でも、アートとデザインについては大変重要だと考えている。我々は今、カーボンニュートラルの取り組みを軽井沢町と一緒に、本気で科学技術で目指しましょう、という話をしているのだが、結局のところ、それは科学技術だけでも駄目で、自然科学だけでも、豊かな自然だけでも駄目で、それらをどう調和していくかを考えるうえで「アートデザイン」はすごく重要になってくると、学術分野として考えている。今回、企業版ふるさと納税を使ってカーボンニュートラルのエネルギー研究室などの研究室を個別に町内へ招聘することを考えているのだが、その中の一つとしてアートデザイン研究室も設置することを考えている。その点で風土フォーラムとも一緒に出来ることもあるのではないかと考えている。アートデザイン研究室は【B委員】を中心に展開していただこうと考えている。その辺りは大学との関わりの中でしっかりとサポート出来ると思っている。

もう一点、イベントを実施するにあたっては、このフォーラムの設置趣旨である「住民をどういうふうに巻き込んでいくのか」ということはすごく重要である。住民と一緒にやっていくという主体性を初回で完璧に出来るとはとても思えないので、先ほど話にあったように、やるのであれば一過性でなく継続的にやらないと駄目である。徐々にやっていけばどんどん参加していく住民も増えてくると思うので、そうした仕掛けをしていくものとしてこの風土フォーラムがあるのであれば、そういうことが必要だと思う。その上ですごく重要なのはテーマ設定であり、【H委員】からもあったが、抽象的なものが良いのか、あるいはそもそも住民と一緒に決めていくのかということの検討が必要だ。私自身がプロセス論の研究者なので、合意形成の観点からは、今の段階から我々でこうだと決めるのではなく、「何のテーマにしましょうか」というところから決めていくようなイベントになると、多くの人が入って主体的にできるようなイベントになるのではないかとこのように思う。テーマ設定は「軽井沢らしさ」というものが何かということ据えて、例えば今、カーボンニュートラルとかエネルギーとかいろいろやろうとしているが、森林をテーマにするとか、カーボンニュートラルというテーマでも良いと思う。いろんな軽井沢らしいテーマ設定をしていくことが、最終的にブランド価値になるのではないかと。ブランドとは、その土地の強み

をどうみんなで認識するかというのが一番重要である。私が聞いている限り、皆様が自身の中で軽井沢ブランドだと思っていることは全然違うので、そこは合意形成する必要はないのだが、認識を一緒にするようなプラットフォームになっていくとすごく良いのではないかと個人的には思う。私は芸術祭に大いに賛成で、研究所としても町がやらないのであれば我々がやっても良いぐらいのものだというふうに思っている。町と一緒に企業版ふるさと納税等を使った事業として出来るかどうか町と協議するが、ぜひ進めていきたいと考えている。以上である。

### 【会長】

では、ここからはファシリテーターの【C委員】と一緒にまとめの方に入らせていただきたい。【C委員】、ここまで皆様の意見を伺っていかがか。

### 【C委員】（ファシリテーター）

それぞれにいろいろな意見を出していただいた。前回会議の意見も踏まえ考えると、まずこの芸術祭の目的は、今ある地域課題に向けたものや繋がり作りを含むと思うが、それをアートの視点で捉え直すということと、あとは芸術を媒介して、住民のまちづくりへの参加を促すということがこの芸術祭の目的になると思う。その目的が委員の皆様これで良いですよということで了解が得られれば、次に、いつ開催するのかやどこで開催するのかという、より細かなところを決めていくこととなる。

今日、事前に会長からいただいている、議題を共有（議題が描かれたデータシートを画面共有）すると、まずは目標を皆様に確認させていただいき、本日のゴールとしては予算を決めなければいけないということなので、そこまでを皆様と考えていきたい。今日の段階ではプロジェクトチームの立ち上げということでプロジェクトメンバーを決めつつ、（大まかな予算を）決められれば良いというふうに伺っている。また、そのために目的とテーマ、期間、場所などを決めていきたいと伺っているので、このシートの全てを埋める必要はないが、色のついている部分が埋めていければ、今日のこの会としてのゴールは達成できると思っている。

### 【A委員】

まず軽井沢町に確認したい。町の予算案の提出が本日までだと思うのだが、どこまで具体的なものを詰めれば提出できるのかということが一つと、もう一点は、こうしたイベントを実施する際の町の大体の相場観があると思うが、それがどのぐらいの規模でどんな用途で計上するのが一般的なのかなどを教えてください。ここで「こうやりたい」「この予算だ」と言っても全然決まらないと思う。その辺から議論を出発した方がよろしいかと思うが、【事務局】いかがか。

### 【事務局】

予算規模に関しては、青天井というわけではないが、基本的には決まってない。お金の出所を考えると、県で実施している『長野県元気づくり支援金』や、町が実施している『みなまちサポート』など住民活動を支援するための制度がある。上限が25万円であるが、それも活用しながらという見込みでいるので、例えば、『元気づくり支援金』については、書類の申請が大変だが、今年別所温泉でやった芸術祭は270万の予算を取って、4分の3の補助なので200万の補助を取られてるというケースもある。ベースはそこが基本になっていて、町単独の予算としては、報償費とか人件費に係る部分と、会場費とかそういった程度でしか考えられないというところで、金額の規模までは状況によって、というところである。

### 【A委員】

『元気づくり支援金』は4分の1負担をしなければいけない。例えば200万円獲得したら50万円は負担するという場合、町がその50万円を負担するということは、考え方によっては出来ると思う。そうすると、ある程度の規模感は、今ここで決めておかないと進められないということになるが、『元気づくり支援金』は今年、佐久地方であるが研究所でも取得した実績はあるので取れないものではない。しかし、やはり4分の1負担しなければいけないというところで、町的意思決定が関わらないと難しいと思う。規模感をどのぐらいにするかというところで引かかるのは、人を呼ぶ費用や会場費用、セッティングとかそういう

ことで、イベント会社に頼むと結構お金がかかる。なので、その辺をどう工夫していくかということでは、30万から200万ぐらいのレンジで最初はやれば良いのではないかと。皆様にもどういう形で進めるかというところに関わるので、そこだけは今日は少なくとも決めないと町が困ると思い、冒頭に発言させていただきました。ご検討いただければと思う。

#### 【会長】

皆様がお考えの規模感がどれくらいなのかなというところをもう少しお伺いしたいが、まず初めに、先ほど【C委員】（ファシリテーター）からお話あったように、細かい今後の運営については、プロジェクトチームにお任せし、進めていきたいと考えている。先ほども申したが基本会議はあと残り3回の会議となっており回数に限りもあり、運営まで基本会議が担っていくことは難しいと考えている。プロジェクトチームに細かい運営は担っていただき、今後の基本会議については、実際に芸術祭の住民の参加をどのように促していくかについて話し合えればと思う。この件について何かご意見などあるか。特に反対意見など、よろしいか。

《特に意見出されず》

#### 【会長】

プロジェクトチームのメンバーについては最大4人までということなので、芸術祭の運営など経験豊富な皆様にぜひ先頭に立っていただいて、進めていければ良いと思っている。【副会長】、いかがか。

#### 【副会長】

実際の運営に関しては【B委員】、それから【E委員】、【A委員】もぜひ加わっていただいて、必要な人材等も設定して、外部のものを入れながら進めていただければ良いのかなと思う。

#### 【A委員】

プロジェクトチームメンバーを引き受けたくないから申し上げるわけではないのだが、私の母親は美術の教師なのだが、私自身は芸術に何の造詣もない。【B委員】から運営などの相談を直接お受けできる体制があるので、オペレーションに関わるものはもちろんお手伝いするが、プロジェクトメンバー自体はきちんと芸術に関して造詣のある人、むしろ、そうした方に人選してもらおうということで、【B委員】ともう1人、【副会長】に決めてもらうということを決めれば良いのではないかと思うがいかがか。私ももちろん協力するので【B委員】からご相談を受けて、運営などについてのアドバイスをするという形でいかがか。おそらくそれが枠組みとしては一番良いと思う。

【会長】

【B委員】 いかがか。

【B委員】

プロジェクトチームが4人までというのは、この今いる基本会議メンバーの方の中で4人選ぶということか。

【会長】

そうである。あとはその他に外部から、相応しい方を引っ張ってくることも可能であると伺ったが、【事務局】 いかがか。

【事務局】

全6回の会議を予定しているので、知識経験者の方も呼び寄せるのは、会議6回分というところである。

【B委員】

とりあえず【E委員】には経験者でもあり、プロジェクトチームメンバーとしてメインで入っていただく必要があると思う。その他のメンバーについては、自薦ややりたい人がメインでやるということで良いのではないか。やりたい人たちが動いていくのが良い。

**【会長】**

私もメンバーではなく、オブザーバーとしてプロジェクトチームの会議には基本的に参加させていただきたいので、よろしくお願ひしたい。【E委員】もよろしいか。

**【E委員】**

よろしくお願ひしたい。

**【会長】**

その他、立候補などあればぜひお願ひしたいが、いかがか。

《その他、立候補者出ず》

**【会長】**

他に立候補ないようでしたら、まずは2人に決めさせていただき、また随時皆様、プロジェクトチーム会議の予定なども基本会議全体に案内していただいて、オブザーブ参加など積極的にしていただければと思う。

本日は、まずは芸術祭の目的から決めさせていただきたいと思うが、【C委員】（ファシリテーター）いかがか。

**【C委員】（ファシリテーター）**

先ほどの話の中でまとめていったのだが、皆様、芸術祭のあるべき形に対する基本的なイメージは一緒なのかなと思う。なので、このまま進めて良いのか、あるいは少し違うのではないかというところが今の段階であれば意見を確認した方が良いと思う。何かご意見あるか。

**【B委員】**

先ほどの『風土フォーラム未来宣言』のところをうまく繋げれば良い。



**【C委員】**（ファシリテーター）

ざっくりではあるが、ここまでのような感じでよろしいか。

**【A委員】**

「地域課題を捉え直す」というのが少し具体的すぎる。課題がない（具体的なものが見えていない）ところに後（に続くもの）がないみたいな状態になってしまっているので、もう少し「アートを使って住民が繋がる」みたいなイメージで、テーマはその都度住民たちが決めていくというような枠組みにしておくとは続かないか。あまりカチッと決めてしまうと、先ほど**【H委員】**のおっしゃったような問題も出てくる。私自身がプロセスの人間（研究者）なので、テーマを決めるというよりも、テーマの決め方を決めておく方が良いのではないかと考えていて、地域課題というのもそのテーマの一つになり得るし、あまり枠組みを決めなくて、「アートで住民が繋がる」ぐらいが良いのではないか。**【B委員】**のご意見も伺いたいのだが、それぐらいの感覚でいかがか。

**【B委員】**

あまり具体的に細かくしすぎると、「私は該当しないのではないかと」と、参加出来ない人がいては良くない。出来る限り多くの人に関わられて興味を持てるようなテーマが望ましいと思う。

**【A委員】**

「軽井沢らしさを皆で考える機会になる」ぐらいが良いのではないかと。先ほど、評価指標の話あったが、やはりアートはあまり評価に馴染まないものだと個人的には思っている。母親が美術の教師だった時に一番困っていたのは、最後に点数をつけなければいけないことで、それが嫌だと言って辞めてしまった。なのでその点の理解はある。「評価」というというより、何か住民が参加して軽井沢らしさを追求するようなものにする、というぐらいの、ふわっとしたものの方が、風土フォーラムの目的にも合致すると思うので、それぐらいにした方が良いと個人的には思う。「アートの視点で軽井沢らしさを考え直す」「住民全体で考える機会にする」ぐらいのイメージである。皆様のご意見を聞いてもらって、ご検討

いただければ良いかと思う。

**【C委員】**（ファシリテーター）

皆様いかがか。「アートの視点で軽井沢らしさを捉え直す」というテーマを添えていると、風土フォーラムがイベントをやる意味というか、風土フォーラムらしさというの残って良いのかなと思う。何かご意見ある方がいればご発言をお願いしたい。

**【B委員】**

「軽井沢らしさ」の「らしさ」という言葉が気になる。人によって多様に感じられるものが一律に決められることを危惧する。シンプルに「アートの力で軽井沢を新しく捉え直す」くらいでも良いのではないかと思う。

**【H委員】**

軽井沢らしさとは人それぞれで、なかなか統一見解は出せないなので、あえて触れる必要はない。軽井沢らしくないことは絶対誰もやらないわけなので、そこはもう常識の範囲であえて議論しなくても良い話である。

アートならアートに特化して、「軽井沢らしさ」など細かな定義は入れなくて良いのではないか。「らしい」のは当たり前なので、かえって混乱すると思う。全く必要ない。

**【E委員】**

「捉え直す」という言葉に違和感がある。私が捉えている捉え方は直さなければいけないのかなとかと思う表現だ。それぞれ今捉えている軽井沢の愛する部分とか、ここは良くないなという部分はそのままであってもそれはそれで良いし、何かに気づいて、もっとこうだったら良いのに、となってもそれはそれで何かアクションになっていけば良いと思う。アートがそのきっかけ、媒体となって、「軽井沢で人と人が出会う」「人との価値観、様々な価値観に出会う」のような、表現が漠然としているが、知的な文章が一部に入ってきて、みんながそれなりに捉えられれば素敵かと思う。捉え「直さ」なくても良くて、「らしさ」とか「捉

え直す」とか、すごくバイアスとして何か力が入っている感じになってしまうと、きっといろんな人の意見として逆に「違うんじゃないか」というものを生んでしまう。漠然と「軽井沢でアートを使って面白いことがあるらしい」「風土フォーラムでやっているようだ」「100年先の未来を見つめて何を始めるのだろう」という、そういうワクワク感がバシッと決まってきて、その後は如何様に展開しても良いのかなと思う。

**【A委員】**

その辺りの（言葉の選択に関する）議論はおまかせする。それこそプロジェクトチームでやってもらった方が良い。

**【C委員】（ファシリテーター）**

大まかな方向性としては、ここまでの意見を踏まえたうえで、詳細な言葉選びはプロジェクトチームにて進めていただく形で皆様よろしいか。

**【会長】**

次回会議のところで、プロジェクトチームで決めていただいたものを発表していただき、何かご意見などあれば、いただきながら適宜修正していくという形でよろしいか。

《一同、異議なし》

**【C委員】（ファシリテーター）**

では、テーマについてはプロジェクトチームで、バイアスを生まないような表現を話し合ってくださいということで良いかと思う。

その上で、予算を決めていかなければいけないが、私自身が芸術祭の予算構成に関して素人ということもあり、実際に芸術祭をご経験されている【E委員】と【B委員】に、今までのご経験を含め、どういう規模感で、どのぐらいの予算規模でやったら良いのではないかなというふうなご意見いただければなというふうに思う。【B委員】、お願いできるか。

## 【B委員】

例えば、山形ビエンナーレは芸術祭の中では一番コンパクトな規模で実施しているものではあるが、それでも文化庁などからいろんな助成金を取得して、2,000～3,000万円の規模で実施している。ホームページにも掲載しているが、朝日新聞文化財団、花王芸術家財団など、いろんな財団に助成金を申請して予算を獲得した。お金の使用は、ゲストを呼んだ交通費や謝礼などで多く使われ、後は材料費や搬送費などに使われる。予算の規模でサイズも大きくなるが、逆に考えると、予算を200万円ぐらいでやるとイメージして考えることもできる。ただ、その場合は謝礼や交通費がほぼなくなり、ほとんどがボランティアになり、それは良い点も悪い点もある。そういう意味で、どれくらいの予算規模をイメージしているのかを【A委員】がおっしゃったのだと思う。逆に1円も予算が出ないのなら、たとえば200万円という小規模で考えてみよう、というのも一つの考えとしてあり得ると思う。

## 【C委員】（ファシリテーター）

【E委員】、いかがか。

## 【E委員】

Slack（コミュニケーションアプリ）に、いろんな芸術祭について、こんなものもある、という情報を参考までに送ったが、結局それらも、大体3,000万円からそれ以上のものだと思っていて、個人的にも今、軽井沢の中で仕事をしていると、いろんなものの規模感を見たときに、あくまでもそれはそれで参考にして、こちらでの規模感はまだ考え直さないといけないなというのはよく思う。なので、町としてのコミットはこのぐらいだ、というのをお聞かせいただいた上で考えたい。例えば、実行委員会を作った段階で、スポンサーをつけるとか、そういう動きをするとまずいものであったりするのかな。

## 【A委員】

むしろ考え方は逆で、町に依存する仕組み作りをしてしまうと、町の体制が変

わったときに廃止になったりしてしまう。最初の呼び水の的なもののサポートは町にしてもらいながら、徐々にスポンサーも含めていく方向でやっていかないと持続可能な仕組みにはならない。山形ビエンナーレも会員制であったり、スポンサーを募って運営しているようである。文化庁の予算もあくまで補助金ということで、定着するまでの話である。イベントを企画するときは、必ずオペレーション費用をどう捻出するかということ、また企画に理解のある企業も個人も多いと思うので、そういうことまで含めて考えていかないと続かない。

**【E委員】**

私もそのことを考えていて、持続可能な話にならないと勿体ない。今年はまず町の予算の中で何が出来るかということを決めた上で、スポンサーの仕組み、先ほど、【A委員】がおっしゃったようにファンを増やしていく方向で、サポートしてもらおう仕組みを別に作っていく必要性はあると思っている。そういったことも、実行委員会の中で作っていかなければいけない。

**【C委員】（ファシリテーター）**

200万円ですると決めたとしても、スポンサーをどうやって入れていくかということ考えた方が良くということである。

**【E委員】**

お金をかければ良いという話でもないが、200万円だと正直なところ、お祭りと呼べるものとして成立するのが非常に難しいと思う。しかし、それだけの予算を使いどれだけの人を巻き込めたか、どれだけコミットできる人を増やせたかという数字が重要になってくると思うので、その辺りが実行委員会の力の見せ所であり、未来の作り方なのかなと思っている。皆様のお知恵やお力もお借りしながら、200万円で作ろうというよりは、200万円はまずベースにあって、そこからどうやって立ち上げていくのかという動きを見せられたら良いかと思う。

**【B委員】** いかがか。

**【B委員】**

今、はっきりと結論を出せないが、元手をどこが出すかということの検討がまだつかないので何とも言えない。

### 【A委員】

開催当日だけのことを考えれば、おそらく 30 万円でも 200 万円でも出来ると思う。しかし、継続する仕組み作っていく上では、それを担う事務局がないと到底続かないし、寄付を募ったりスポンサーを募ったりするなら、なおさらそういう人がいなければいけない。例えば、年間で週 5 日のパートの人を、社会保険を含めて雇うとしたら大体 300 万円ぐらいはかかるし、正社員や専門員的な人を雇うとすれば、それこそ 500 万円とか 1,000 万円とかかかってくる。それを事務局でどう考えていうかということは、1 回目をやらないとどこまで賛同する人が増えるかどうかわからない。1 回目はとにかく手弁当でやりますというのであれば、もう 30 万円でも 200 万円でも良いと思う。ただ、その中で事務局をしっかりと据えないと、結局のところ運営自体が継続出来ない。寄付企業スポンサーを募ったりするレベルの話であれば、手弁当で出来る話ではなくなるので、しっかりとした事務体制整えてやっていくことが求められる。それこそ専属の人を 1 人雇おうと思ったら 400 万円から 500 万円ぐらにかかる。そこを最初から予算計上も出来っこないので、まずは来年 1 回やってみるということを目標にして、最初は手弁当でやりながら進めていくしかないのではないか。今日の今日、この場で予算額を決めろという話であれば、それしかない。500 万円など、絶対町が出せるわけないし、補助金にしても獲得できるかどうか決まっているわけでもない。とにかく来年 1 回やってみるっていう中でやり方を決めていくという進め方しかないと思うがいかがか。

### 【C委員】(ファシリテーター)

「まずやってみる」ことで決めた上でということでも良いかなと思うが、事務局ではこのような形だとか、来年度、実際に補助金を取るような形で行うというようなイメージか。

### 【事務局】

事務局で、というより、この先基本会議がずっと芸術祭の事務局を担っていくわけではないと思うので、今後独立していくことを考えていかないといけない。そういう意味では、始められるところから始めて、ファンを募って実行委員会を組織化して継続させていく、ということが重要かと思う。町が 100%ずっと関わっていくわけではない中で、町で予算が必要だとすれば、誰を呼ぶのかということによって金額が変わるし、1 人に対して何十万も出せるわけではない。誰を呼ぶのかという、規模感をある程度想定しておかないと、200 万円で組むにも、関われる人たちが限られているので、その辺りの規模感とあとは実施期間を睨んでおいた方がよい。もし夏にやるとしたら、準備期間が残り少ないので、100 周年という年度の中で、秋とか冬にやるとか、【D 委員】がおっしゃったように、住民の皆様が置いていかれないような時期についても睨んでいかないといけないと思う。お金が先なのか、何が先なのか、どこから検討するのが良いのか少し議論が必要なのではないか。

#### 【E 委員】

【事務局】に一つお聞きして良いか。プロジェクトチームのメンバーの話に戻るが、これまでの期で風土フォーラム基本会議の委員を務めたメンバーの中で、今回の話に関心のある方がこのプロジェクトのチームに入るということはあり得るのか。オブザーバーなのかご意見いただくのかわからないが、「(そういうことを) やりたかった」ということで参加されたケースがあるのかちょっと気になった。

#### 【事務局】

基本会議とは別で、なかなか時間と労力を割けるだけの方が限られているので、やりたかった、というのはこれまで聞いてはいない。

#### 【E 委員】

承知した。

#### 【A 委員】

むしろ逆に、プロジェクトメンバーをこの基本会議のメンバーから選ばなければいけない理由はあるのか。

#### 【事務局】

基本会議との繋がりがベースなので、何人かだけで、あとは外部の方を普通の委員として置くことも出来なくはない。ただ、その際にどういう理由で選定したのかということだけ、きちんと説明できれば問題ない。

#### 【A委員】

プロジェクトチームが“ミニ基本会議”になるのはあまり良くないと思う。それであれば基本会議全体でやりなさいという話になりかねない。それでは、調整が難しいからというだけの理由になってしまう。だとすると、基本メンバーからは今のお2人と決めた上で、もう2人は外部の方で芸術祭プロジェクトに関心があって、ぜひやりたいという方を選ぶのはどうか。お2人に人材を探して人選してもらふ必要こそ出てくるが、そういう形で決めていただいた方が良いと思う。それこそ今までの基本会議のメンバーから選んでという委託の仕方もあるし、誰でも良いからというやり方もあると思う。選び方だけ決めれば、今日のところは十分ではないか。

#### 【E委員】

私も予算に関しては、結局そこで実行委員会を作ったときに、どれだけの人が、どれだけ本気で、どういう規模でやりたいかということを見つめていかないと、200万円というベースから話がなかなかまとまらないと思う。

#### 【会長】

プロジェクトチームについては、【B委員】【E委員】の2人を先頭に進めていただき、人選など決まり次第、皆様に適宜ご報告していただくという形でのよろしいか。

#### 【A委員】



一応、人選は意思決定した方が良い。メール審議で構わないので、決まったらメール審議をして、基本会議で決定したという形を得た方が安全だ。

### 【会長】

では、お2人でご相談いただいて決まったら、事務局の方に報告していただければ、事務局から全体にメールで流せるかと思うので、そのような形でよろしくお願いしたい。

### 【B委員】

アドバイスがあれば欲しいのだが、例えば上田の別所温泉でも最近芸術祭を開催していて、規模は結構小さいのだが、別所温泉の自治会連合会、商店街というか温泉街が共催となっている。お金の出し入れが関わってくるので、通帳があっってお金の出し入れの透明性であるとか帳簿整理の話も出てくるはずである。町でいうとそれが中軽の商店街になるのか、どこになるのかはわからないのだが、そういうところを母体としつつ進めた方が良いと思う。そういった母体となり得るもののアイデアがあればいただきたい。いきなり今から、ゼロから帳簿を作成して始めるというのは、ちょっと現実的ではない気がする。

### 【A委員】

一つはお金の流れの話で、町がお金を出すかどうかはともかくとして、現実には町が主催してやった方が良く個人的には思っている。町が主体になってやるとしても、町のお金を使うかどうかはともかく、町からの委託という形になるので、そのお金を受けることが出来るちゃんとした要件、定款等も全部備えておかなければいけない。それを今から新たに作るより、既存の受け皿になり得る、先ほど【H委員】からあった軽井沢町の中にいろいろとアート・芸術をやっているところが結構あるように聞いているので、そういう団体をお願いするのが良いのか。あるいは、そのような工数があると結構面倒くさくなるので、研究所や大学であれば割と忠実に対応出来るので、先ほど申し上げた「アートデザイン研究室」という展開を予定しているので、大学側で町のお金を受けて、大学側で事業を執行するというやり方でも、委託という形であればできるかと思う。その辺り

を皆様でどういう団体が良いのかということをご検討いただいて、どうしても難しいようでしたら、企業版ふるさと納税の話もあるので、いずれ大学側で受けて実施するというのは、やぶさかではない。「私達（大学）でぜひとも」という話ではないので、皆様でご検討いただいて【B委員】の方でも、【B委員】が中心となって信州大学の方でやっていただく予定なので、その辺は少し検討いただいて、ご相談いただければ、出来ることは対応する。

#### 【B委員】

信州大学などの大学も中立的な機関かと思うので、ひとつの案として町と大学機関を母体することも可能かと思うが、どうだろうか。

#### 【A委員】

町とは改めて協議するが、企業版ふるさと納税でアートデザイン研究室を設けようとなったのは、まさにそういう中核になるようなことを【B委員】にやっていただきたいということで作ったものである。風土フォーラムの中で、ぜひその方向で良いということであれば、そういうふうな形で進めていくし、これもまさに住民からの同意が必要な部分の一つなので、その辺を十分にご議論いただき進めていければと思う。そうすると企業版ふるさと納税の事業についての予算も使えるようになるので、継続的な事業にしていくには、割と良いのかなと個人的には思っている。町の意向もあるので、町とも協議をして進めていこうと思う。また、【B委員】、プロジェクトチームの方でもいろいろご検討いただいて、ご意見をいただければと思う。

#### 【B委員】

町としてはそういうやり方でも問題ないだろうか。

#### 【事務局】

来年度の予算計上の時期になっていて、今の段階ではっきり「どういう規模でどういう人を呼ぶからこういう金額なんです」ということが説明できないと厳しい。

### 【A委員】

要は町の予算を、今計上したものを委託にするかどうかの話で、趣旨は全然違っている。そこは町が直接執行すれば良いだけの話なので、そうではなくて、企業スポンサーを募ったり、企業版ふるさと納税を活用したりする場合の受け皿を、企業版ふるさと納税は我々しかできないことであるが、スポンサーを受けるときの受け皿を町で直接受けてやるやり方もあるが、それは町としても大変だと思う。【B委員】の発言趣旨としては、会計できる団体を作ってやらないと難しいのではないかというご指摘であったと思うので、そこについては大学でも受けられるし、既存のものでやった方が良くはないかということと、大学でもできますという趣旨での発言なので、町での予算計上と重ねて話した話ではないので、独立した話だと思っていただきたい。

### 【事務局】

費用どうこうではない部分で、時期と、どういう規模感で行うかぐらいは、ある程度決めておいた方が良く気がする。どういう人を呼ぶのか、そもそも人を呼ぶのか、あるいは町の人財を活用してやるのか、などの方向性が決まっていた方が良く思う。

### 【A委員】

その詳細をまさにプロジェクトチームに詰めていただきたいというところなので、開催時期ぐらいのイメージを決めておくぐらいしかできないのではないかと。ちなみに、8月のイベントというと、とてつもなく宿泊費が高騰するので、人を呼ぶにしてもお金かかる。宿泊で来ることを前提にすれば費用がかさむので、1日のイベントにするのか1週間のイベントにするのかわからないが、仮に1週間ぐらいずっと展示していくようなイベントをイメージするのであれば8月・9月は避けた方が予算的には良いように思われる。そう考えると、秋ぐらいをターゲットにした方が、かつ、時間のちょっとゆとりもできるので良いように思う。議事を乱して申し訳ないが、そのぐらいのスケジュール感が良いかなと思う。皆様のご意見を伺いたい。

### 【会長】

今、A委員からご意見いただきましたが、この件について皆様、その他いかがか。

### 【E委員】

私ができることは、今、【事務局】の困っているところで出来ることと思い、Jamboard に書いたような数字に、意味を持たせる書類をとりあえず書けるぐらいしかない。それがその通りになるわけでもなくとも、まずこのぐらいのものをおさえるためにどう動いたら良いか教えていただいて、それをやるしかないのかなというところである。内容について細かいことを決めるのは、皆様の合意形成も持たせながら進めたい。

### 【事務局】

費用に関しては、如何様の考え方も出来ると思うが、やはり内容を早めに詰めてもらった方が良いというのが、今この議論の中で思ったところである。何日間で、いつの時期にやるのかで費用も全く変わってくるし、いつの時期に、どのぐらいの規模で何日間やるのかという、そのあたりで組み立てられる予算を組み立てて、予算計上が10月の第1週ぐらいまでだったら作れるかなとは思いますが、その辺りの話である。規模感、内容がざっくり決まっているということが前提である。

### 【A委員】

明日、町に企業版ふるさと納税を使ってこういう芸術祭やって良いものなのかという話を聞いてみる。それがもし良くなればまた少し今の進め方もスケジュールも変わってくる。それについては、また改めて共有する。開催時期については今この場で、決めてしまった方が良くと思う。

### 【会長】

前回の会議では、町制100周年に合わせて8月の開催ということであったが、

皆様からのご意見をお伺いしていると、10月頃の方が良いと思われるが、いかがか。

**【B委員】**

10月や11月が良いと思う。

**【E委員】**

私も10月だと思う。

**【B委員】**

渋滞の中やる必要がないと思うし、地元の人をベースにするのであればピークをずらす方がやりやすい。あとは、何日の規模かである。1日なのか、3日程度か、1週間か1か月か。今の話からすると大規模でやらない方向性で、土日祝日を使った2～3日でやってみる方が良いのではないか。町の予算も動かさないことを考えると、何とかできる形で考えるべきであると思う。芸術祭という名前を掲げるほどではなくなる可能性もあるが。

**【A委員】**

とにかく最初はミニの方が良いです。“ミニ”と名付けるかどうかはともかくとして、ミニマムスタートしないと本当に大変である。特に事務局がない中で、オペレーションするのは大変で、多分それを今の事務局が担うとなると辞めてしまう可能性がある。開催期間が1週間とかになると到底無理だと思うので、1日、2日のぐらいのイメージ感でやった方が良いと思う。

**【B委員】**

例えば、2023年のカレンダーを見ると、11月は11月3日が文化の日で祝日なので、文化の日と合わせて、3・4・5の土日祝日の3日間でやってみるのはどうだろうか。

**【A委員】**

芸術祭がどういう形で行われるイメージ沸かないので、そこら辺は【B委員】などイメージができる範囲でやっていただくのが一番良いのではないかと思う。私は特に意見はない。

【E委員】

私たちがばかり喋っているが、町の人たちは火・水が休みの方が多いのではないかな。なので、土日は町民の方が集まりにくいのかなと思う。お店を営んでいるなどはどうなのか。そういうことも配慮したくなる気持ちも私の中にはある。

【B委員】

平日のみの開催は難しいだろう。すくなくとも1週間で平日を含んだ日程なら可能かと思うが。

【E委員】

あまり大風呂敷を広げても首を絞めるだけであるが本当は、理想としてそのようにしたい。町の方と話していると土日がすごく忙しい方が多い。

完全に余談となるが、私自身は、今この風土フォーラムに参加させていただくことで、こうやって出会えなかった人と出会えることがすごく嬉しいし、これがきっかけで芸術祭もある意味どこかでコンソーシアムみたいな大げさなことは言わないまでも、軽井沢にある事業体とか個人とか、あるいはそういう民間、大学や役場みたいなところがコンソーシアムに作り上がって行って、やがて自治体の実行委員がその母体になっている、というような形が理想だなと思う。始まりやとっかかりは最終的にミニマムから始めるのが、自分の力量的にも一番良いと思ってはいるが、とはいえそこは先を見据えて、1回プロジェクトチームの【B委員】ともじっくり話しながら、どんな人を巻き込んでいくと持続可能なのだろうかということを考えて、予算についても考えたい。その時、町が出来うる限りのところであったときには、どういう人たちをスポンサーとする、あるいは個人のファンをつけていくか、みたいなことに、また【A委員】のお知恵を借りたりしながら、準備期間は短いですけど1年はあるので、そこまで進められたら良いのかなと、いろいろお話を伺いながら思っている。

**【C委員】**（ファシリテーター）

進め方として伺いたいのだが、例えば予算の規模というか、予算組み、細かく費用ごとに分けたり、項目ごとに分けなきゃいけないというところがあると思うのだが、それを今日ここで合意を取るのが難しいということであれば、プロジェクトチームに委任しますという形をお願いすることも可能なのか。【事務局】、いかがか。

**【事務局】**

時期さえ間に合えば良いと思う。

**【C委員】**（ファシリテーター）

そうすると、細かいことやどのように持続性を持たせたり未来に繋げて広くしていくかということをお考えいただいた上で、（プロジェクトチームに）設計していただくのが良いと思うのだが、会長いかがか。

**【会長】**

私も皆様のお話をお伺いしていて、そもそも芸術といっても、幅が広く、その内容によって会場や実施の期間も変わってくるというふうに思う。この場での決定は難しいと思ので、皆様の合意が得られれば、一旦この話はプロジェクトチームに委任して、決まったことを随時メールなどで報告していただき必要なものであれば、メールで審議を進めていくという形が良いと考える。皆様よろしいか。

**【E委員】**

せっかく Slack があり、【H委員】は入ることができていないが、Slack でのやりとりに加え、【H委員】にはメール読んでいただくというやり方でよろしいか。皆様のご都合の良い手段の組み合わせでいかがか。

**【B委員】**

今の話からすると、叩き台がないと前に進まないなので、私と【E委員】を中心に骨格を決めて良いという理解で良いだろうか。日にちなども仮に提案しても良いか。

【会長】

皆様がよろしければ良いのではないかと。目的が逸れなければ良いと思う。

【A委員】

具体的な提案がないとこういう人数の中では意思決定ができない。具体的な提案と、そこに理解のある人にまとめてもらってから提案していただき、その可否をここで決定するという進め方しか、逆に言うとなんとも思う。日程は良いと思う。日程も含めて提案してもらおうと我々としても判断しやすい。私はプロジェクトチームへ任せる案に賛成だ。

【会長】

皆様、いかがか。特に反対意見がなければ、そのような形で進めさせていただきたい。

【B委員】

その場合、いつまでに決める必要があるか、というスケジュール感を教えて欲しい。

【会長】

期間、期限については、メインが予算の期限次第になると思うので、明日【A委員】に町側へ電話していただいた結果次第になるという形と思われる。

【A委員】

個人的には当初予算への組み入れは難しいと思っている。企業版ふるさと納税の件については、来月（10月）中旬までに情報を提出すればOKと言われてるので、その中に盛り込めるかどうかというところで、改めて町へ相談してみ



る。いずれにせよ、それぐらい差し迫った期限なので、どういう予算規模でどう  
いうことをやるか、少なくとも10月の上旬ぐらいに大枠の予算が判断できるよ  
うな形でなければならない。誰がどういう人をどのくらい呼ぶのか。開催時期は  
秋だとして、あとは人や会場費用など、どういう場所でやるのか。先ほどのご意  
見のあった通り、1ヶ所に集めるのではなく分散でやるとするならば、どのよう  
なところが良いのか。公民館であればお金はかからないが、そういった場所のイメ  
ージも必要だ。費用がかかりそうなのが場所代と人件費なので、そこをイメージ  
するようなものを来月上旬ぐらいまでに決めていただくと、判断しやすいので  
はないか。

**【B委員】**

町の施設で使える施設を利用することも良いと思う。そうした施設はどのよ  
うなものがあるのか。

**【A委員】**

町所有のものは全部使える。

**【B委員】**

例えば、旧雨宮邸の前の「ギャラリー蔵」は、町の所有であったと思うが。

**【事務局】**

そうであるが、予約制なので4月に、予約が解禁になり順次、先着順に予定が  
入っていく。ある程度日程が決まっていれば場所をおさえることは可能である。

**【B委員】**

町の所有している場所で、使われていない施設を有効利用するのもこの機会  
に良いと思うが。

**【A委員】**

スイス公使邸とか八田別荘とかいろいろ使っていただくと、本当に町として

も助かると思う。

**【事務局】**

良いと思う。

**【B委員】**

町の所有施設で使用可能な場所を改めて教えていただけると助かる。

**【事務局】**

承知した。

**【B委員】**

**【E委員】**と私である程度たたき台を作り、町の施設を有効利用しながら、軽井沢町を回遊できるようなものを考えてみたい。なるべく実現可能な範囲で骨格を考え、その案を早めに共有したい。また、皆様にアイデアがあれば遠慮なく出して深めて行きたい。

**【会長】**

よろしく願いいたしたい。では、本日はここまでとさせていただきます、事務局にお戻ししてよろしいか。

## 6. 事務連絡

**【会長】**

特に事務局から報告などないか。

**【事務局】**

特にはない。

## 7. 閉 会

**【会長】**

なければ、本日はこちらで閉じさせていただきたいと思う。